

1. 出席していた1、2回生と、どのようなやりとりが印象に残りましたか？

- 残念ながら自分の専修に興味がある人がほとんどいなかったのも特ではありません。
- やりたいことに悩んでいる方が多く、同情の気持ちとなつかしさを感じました。
- 読むべき本、思想家、思想内容について。
- 専門の授業はどういった授業(内容、形式 etc...)なのか。
- 自分の専修と他の専修の違いを聞かれて、一方的に自分の知っていることを話したこと。
- 研究室開放では、寡黙になるタイプの子と話す際には、相手の発言を引き出せるように話し掛けなければならないが、今回のやりとりの中では総じて失敗してしまったように感じた。
- 専修についてしっかりしたイメージをもっている人が少なく、自分が一回生だったころのことを思い出しました。
- 地中海世界はヨーロッパ世界か。
- どんな研究をしているんですかという質問が多かったですが、学部生は研究というほどのことをしていないので答えづらかったです。
- 「何を勉強しているんですか」という質問がほとんどだったこと。具体的なイメージが描けていない様子だった。
- 留学を考えている人が多いのが驚きでした。
- 「今回の訪問を通じて志望が変わってきた」という発言。
- 意外と専門的な知識がある一回生がいてビックリしました。意識が高かったです。
- 専門科目に対する不安をもっていたこと。やりたい研究についてはまだ漠然としている。

- 自分の専門に近い人と話していて楽しめました。
- フリートーク形式でそれぞれの質問に答えていく中で専門の話に興味をもってくれたようで、こちらとしても有意義な時間を過ごせました。
- 意識が高い。こういう研究をやりたいとすでに決めている人がいた。ただ学部でできる研究の域を超えている気がした。期待が大きすぎるかも。
- 具体的には特にありませんが、積極的に自分の興味を語る一回生の姿に驚かされた。
- 専門を聞いたり、一回生が興味を持っている研究室と近い部分をアピールしたりしました。
- 教師になりたいとか仏像の研究をしたいとか目的が定まっていってしっかりしているなあと思いました。
- 研究に関する質問や研究室の様子などについて尋ねられたことが一番印象に残っています。
- 一回生にして既に希望する専修がある程度決まっていること。
- サークルと学問の両立はできるのか、どういう研究ができるのかなどのやりとり。就職先についての質問など。

2. 1、2回生に対して、どのようなサポートをするのがより望ましいと思われますか？

- ガイダンスと夕食会という現在のやり方がとてもいいと思う。
- このような先輩との交流はとても効果的だと思います。
- どんな学問をやりたいか、学問をやる態度、なぜ学問するのか、そういったことを相手に自覚させる形で、相手自らの内から自分で答えを引き出させるような形で、意識改革できる場を設ける。
- 今回のような催しをするのであれば、もっと下回生に向けて通知し、大勢を集めた方がいいのではないかと思います。

- このような機会を積極的に増やしていくこと。
- 相手の考えていること、聞きたがっていることをできる限り把握し、具体的に説明する。
- 勉強などに役立つ情報を積極的に開示すること、対面面談に加え、メール相談なども受けつけること。
- もっと気軽に研究室に遊びに行けるような雰囲気をつくること。私のそうだったが、やはり研究室というと行きにくいイメージがあり、行きづらかった。
- 系に分けるのは仕方がないことだけれども、あまり系にとらわれずにいろいろな分野に関心をもってほしいと言いたい。
- わざわざ研究室を訪ねずとも、この研究室はこの範囲をカバーしているけどその範囲はカバーしていないということを、他研究室との比較を含め広報しておくともよいと思います。
- このように上回生と会う機会を設けることは有意義だと思います。
- 縦のつながりが増える機会がもっとあればよいと思います。
- 単位に関係なく、様々な専修の学問内容を活動を通じて実感できる機会を設ける。
- 語学の勉強法を教える。
- 中央への精神的な行きにくさをなくす。もっと1、2回生でとれず専門の授業があってもよい。
- 漠然とした考えを明確化できるアドバイス、例えば基本文献案内など。実際一回生の方々とお話して一回生のこの時期ではまだ現実感を持って研究室のことを考えられないのかなという気がした。もう少し遅い時期に開催する方がお互い得る所が大きいのではないかという印象です。
- 専修決定のための考察を深めるためにも研究室の関係者との交流の機会を設けるべきかと思います。特に二回生対象に。

- 先輩達と交流の機会をもてるように。
- 各専修の卒論の実例を見れるようにすると、どれだけのことをどれだけの深さで研究できるのかなど、具体的なイメージをつくりやすいと思います。
- レポート作成などのサポート、作文のサポートが必要だと思います。
- 個人的には、もう大人なのだから放っておけばよいと思います。勿論、悩みや相談事があるなら、相談室のようなものは必要と思いますが。
- 具体的な質問をする場を設けることも大切ですが、このような交流の機会を用いて研究室の様子を少しでも伝えていくということは大切なことであると思います。
- 上回生、先生方との交流。演習の様子が一、二回生のうちから分かるとよいかと思えます。
- 3~4回生、院生の生活がどのような流れで展開されるのか1、2回生はよくわかっていない。忙しさや課題、カリキュラムなど「～さんの事例」みたいに冊子にまとめて紹介したらわかりやすいかも。
- 興味のある範囲が広く、何がしたいかまだはっきりと決めかねている人が多いように思いますので、幅広い授業を受けて参考にしてもらえればと思います。系ゼミナールの認知度がかなり低いので、もっと周知できれば参考になるのではないのでしょうか。

3. 歓迎夕食会に参加して、どのような感想をお持ちですか？

- 自分も一回生のときは専修が具体的にどんなものか分からず困っていたのを思い出した。とてもいいイベントだと思うのでこれからも続けて欲しい。
- 想像以上に多くの参加者がおり、驚くと同時に、1、2回生がこのような場を望んでいることを痛感しました。
- 教授が意外と気さくな人だった。充実していたと思う。
- 私自身、色んな人と話ができて楽しかったし、刺激にもなりました。ありがとうございます

いました。

- くださった雰囲気会話できるのはいいと思いました。
- 一回生から話しかけてくるのが少なかった。やりたい研究の内容が殆ど定まっていなかった。
- 働きかけられたらモチベーションを上げる学生が少なからずいる。対話は自身の興味、関心に気付く大きなきっかけになると感じた。
- オープンなスペースの中で1、2回生にとって様々な専修の先輩や先生方と話をする機会はとてもいいと思います。来年も是非やってください！！自分も一回生のときに行けばよかったです。
- 一回生はなかなか自分から話しかけてくれず、一回生同士で話していることが多いので、なかなか話すきっかけがつかめませんでした。
- 90分は少し長すぎたかもしれません。
- 一回生だけでかたまって話をしていることが多かった。どれくらい自分の専修がアピールできかわからない。
- 同じ立場の人が話している姿が目立ったのが少し残念でした。
- 歓迎会に関係のない人が多く見受けられた。あまりに多くそのような人がいるのは問題。
- 上回生用の名札があまり目立たない。
- もっと一回生に参加してほしい。
- 楽しかったです。他教室の先生方や学部生の方と話げできたのもよかったです。
- ビールはなくてよいと思う。
- 想像以上にぎやかで、会話もはずんでいる様でした。

- 話をする時間がもう少し長くてもいいのかなと思いました。具体的な案があるわけではないのですが、より交流をしやすい形がないのかなと思いました。
- 一回生が自由で楽な感じで参加できたと思うので、良かったと思います。
- 初めて参加しましたが、話しやすい雰囲気だと感じました。
- 良い企画だと思います。
- 他の学科の方とお話することが出来たのは収穫でした。
- お寿司がでるのが驚きでした。
- 新入生が先輩の話を聞ける機会があまりないので意義のあるものだったと思います。
- ご飯を食べに来ている人が多い気がしました。

4. 先輩相談室についてご意見、ご要望がありましたら自由に記入してください。

- 本日はお疲れ様でした。
- 利用したことがないのでイマイチよくわかりません…。
- 経験談や具体的なキャリアパスの例や参考書などをより体系化してHP上に掲載されてはどうか。
- 申し訳ないですが、先輩相談室についてよく知らないのでよく分かりません。
- 逆にこういう場に出ない人にこそ存在を伝えるべきだと思います。
- 存在をもっと広く知ってもらった方がよいと思います。
- 存在意義がよくわかりません。
- 午前中に開室してくれたら便利。

- 利用しようとしたことがなく、分かりません。
- 特に思い当たりません。